

(4) 谷田川地区

a 地形概況

谷田川は、利根川に沿って東進して渡良瀬遊水地に至る全長 22km の一級河川である。上流部は邑楽台地の南端を東流し、板倉町内の県営板倉ゴルフ場付近で台地を抜け、下流側は低地の広い氾濫原の中を流下している。

堤防は近世以来の特徴を継承しており、堤により規定される河道幅は、一定ではなく、現在のゴルフ場周辺（小保呂地先）では、河川敷が紡錘形に著しく広がるなどの特徴を持つ。

b 植生概況

谷田川には、地域の良好な自然環境が現存する。河川敷の多くでは、水辺の環境に適し多くの植物群落が形成されており、水面下（沈水植物）から水際ならびに微高地（ヤナギ林、エノキ林等）に適応した水辺の植物群落の連続したエコトーン（移行帯）が形成され、多くの動植物の生息域となっている。また、ヤナギ類が多く、その大規模な群落として「柳山」と呼ばれる樹林が形成されている。また池沼としては、堤の内外に、蛭田沼、天神池、肘曲池、柄池、外柄池が現存する。

c 利用状況

- ・ 下流側左岸の堤防道路は、近世の古河往還であり、河川沿いの堤防を利用した街道およびそこに連なる集落（谷田川左岸の自然堤防集落）が継承されている。
- ・ 谷田川には、蛭田橋から藤ノ木橋の間（浦川田地先）に川田が存在する。川田は、掘上田の一種とされ、板倉町における低地の開田技術として広く行われたことが伝えられている。谷田川では、上川田、下川田、浦川田などの地名からもその耕作をうかがい知ることが出来る。
- ・ 上流部を中心として、現存する川田のほかに、川田に由来すると推定される水田が耕作されている。
- ・ 現在の群馬の水郷公園東側に広がる柳山周辺では、近代初期にはヤナギ林が広範囲に分布していることが確認される。柳山では昭和 30 年代頃まで、燃し木（家庭用燃料）の採取が行われた。川田を始めとする耕作地は、大正期以前から昭和 30 年代において、ヤナギ林内に盛んに開墾され、周辺のヤナギの枝を切り、畔に挿し木したと伝えられる。現在耕作されている川田の周辺や柳山の林床には、耕作跡と考えられる多くの溝状の湿地や微高地が現存する。
- ・ 蛭田沼や柄池では、キリゴミ漁や地引網といった伝統的な漁法が現在でも行われている。また、谷田川には漁業を専業としている漁師も健在である。
- ・ 草地の管理方法として、春先には「シバ焼き」が行われている。
- ・ 現在、群馬の水郷公園周辺では、釣客など多くの利用者が集い、さらには地域に現存する揚舟を活用した「揚舟ツアー」が行われるなど、河川と人間の新たな関係を構築する試みの場となっている。
- ・ 紡錘形に膨らむ堤防に囲まれた広大な河川敷は、現在でも遊水地としての機能を有するが、常時はゴルフ場コースとして利用されている。

d 文化的景観の重要な構成要素の分布

分布状況は、両岸に樋門をはじめ、石造物、沈下橋、八間樋頭首工など「水場」の文化的景観を形成する重要な構成要素を数多く認める。また近世初期に造られた堤防は、破堤による改修のや新堤（引堤）を造り水と闘ってきた歴史が近世文書から把握できる。さらに渡良瀬川の逆流に備え、遊水池機能をもたせた堤の広がり、そして北側の板倉沼へ流入させるための越流堤などを造っていることがみてとれる。これらの堤はほとんど現在に継承し、遊水地部分は近年ゴルフ場として利用されている。このように本地域における人々の治水への歴史が残る河川域である。

堤防 小保呂地先から合の川橋の区間の堤防は、文禄期又はそれに続く年代に築堤されたものを継承している。

用水施設等 八間樋堰や高鳥用水（現在の北根用水路）など、近代以前に起源を持つ利水施設が、数度の改修を経ながら、現在もその機能を果たしている。八間樋堰は、享保 10（1725）年に水害により破損したことが、またその上流側で取水する北根用水路は享和 2（1802）年に改修したことが記録にあることから、その歴史の古さが理解できる。

排水機場 近世までは、板倉低地に湛水した内水の排除は、仲伊谷田において渡良瀬川へ、小保呂において谷田川に排水されていた。小保呂の樋門は、その後邑楽郡東部用排水事業により改修され、昭和 54（1979）年に、現在の小保呂排水機場が新設されており、近世からの古い排水系統を踏襲している。また、渡良瀬遊水地との接合部に谷田川第一排水機場が設置されている。谷田川第一排水機場は昭和 23（1948）年に設置され、現在も稼動する排水機場としては国内最古のものである。

橋梁 地区内には、上流から斗合田橋、蛭田橋、藤ノ木橋、八間樋橋、合の川橋の 5 つの橋が板倉町の南北の交通を繋いでいる。また、それ以外に「通り前橋」、「北坪東橋」の 2 つの沈下橋が現存する。欄干はなく谷田川の水位が上昇した場合にも水の抵抗が少ない構造を持つ。板倉町の東地区と南地区を繋ぐ橋であり、また居住地と中洲の耕作地を繋ぐ重要な橋である。

石造物 堤防敷には、特有の水に係る信仰を表す石造物が分布する。主に堤防上に、水神塔、水神宮・風神宮、青龍大神など水に係る信仰を表すものが多く見られる。なかでも青龍大神に関しては、上新田と中新田集落では水神まつりが今も行われている。また、大字大高嶋字丸谷の堤防敷には、「水場」に暮らした人々により守り伝えられた長良神社が鎮座していたが、現在は覆屋のみが残る。



写真 2-2-21 蛭田沼



写真 2-2-22 蛭田沼でのキリゴミづくり
(2007年2月5日撮影)



写真 2-2-23 柳山を望む



写真 2-2-24 川田での稲作



写真 2-2-25 揚舟ツアー



写真 2-2-26 水神塔・地藏尊（蛭田沼橋脇）



写真 2-2-27 釣堀（ぐんまの水郷）



写真 2-2-28 水神宮・風神宮



写真 2-2-29 県営板倉ゴルフ場



写真 2-2-30 柄池（ゴルフ場内）

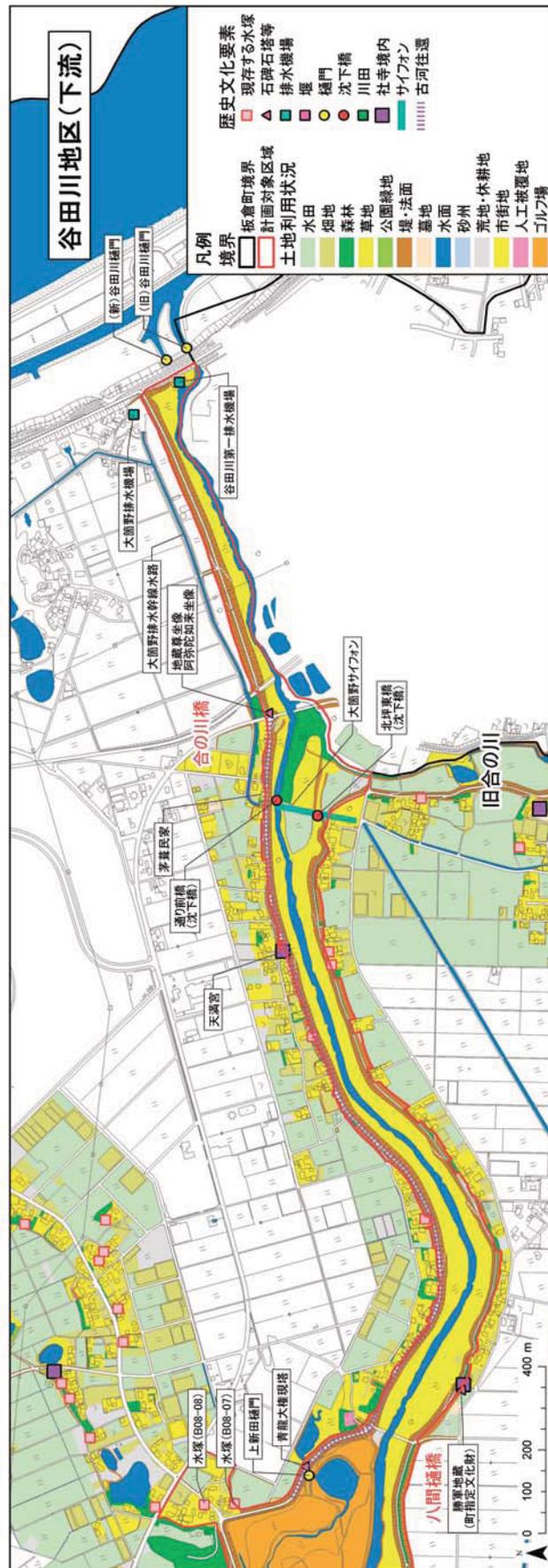
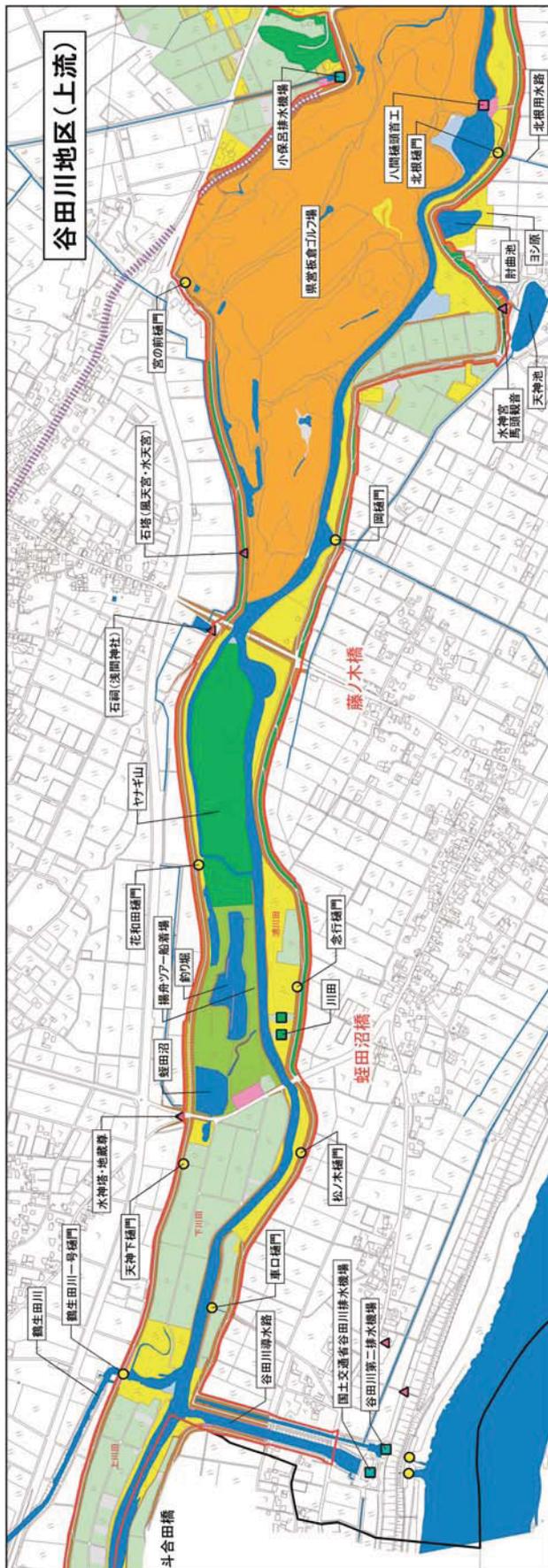


図 2-2-6 谷田川地区における土地利用と文化的景観構成要素の分布